

多高通信

第238号 令和8年1月30日発行



さどく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

災害科学科

地域の安全を支える若き力

七ヶ浜浜浜地区自主防災訓練に参加

11月2日(日)、
湊浜地区で行われた「第22回自主防災訓練」に、本校の二年生代表五名が参加しました。今回の訓練は、平日の昼間に発生した地震を想定し、在宅する高齢者の安否確認や初期消火に重点を置いた、極めて実践的な内容です。生徒たちは、各班の「安否確認の声かけ」や「自宅からの消火器結集」が円滑に行われているかを評価する「アドバイザー」という大役を担いました。訓練後の会議では、「高齢者の方が助けを呼びやすい合図を決めてはどうか」「LINEを活用した情報共有をもっと広めたい」など、若者らしい視点で具体的な改善案を堂々と提案しました。



地域の方々からは「高校生の客観的な意見が、自分た

ちの盲点に気づかせてくれた」と感謝の言葉をいただきました。地域の一員として、自分たちに何ができるかを真剣に考える、頼もしい姿が見られた一日となりました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

普通科学科

フィールドワーク実施!

10月21日(火)、一年生普通科によるフィールドワークが実施されました。生徒たちは「多賀城」「蒲生干潟」「七ヶ浜」「塩釜」「石巻」「鹿島台」の六コースに分かれ、地域の最先端技術や環境保全、震災復興の現場を直接訪ねました。蒲生干潟コースに参加した西條優季さん(高砂中出身)は、「専門の先生から土壌や生態系、塩分濃度について直接学ぶことができた。普通に生きていたら知ることができない貴重な体験ばかりだった」と、事前学習を超える「本物」との出会いに感動を語ってくれました。地域の方々の情熱や専門的な技術と結びついたとき、学びはより確かなものへと進化しました。



世界へ発信! 災害科学科

「まなぼうさい」でワークショップ実施

12月6日(土)イオンモール新利府にて防災啓発イベント「まなぼうさい」が開催され、災害科学科の一年生が参加しました。生徒たちは、仙台管区気象台監修の「後発地震注意情報」に関するワークショップでファシリテーターを務め、来場者に命を守る行



動を呼びかけました。学科の存在意義を改めて実感しました。災害科学科としての誇りと責任を強く意識した貴重な一日となりました。

高校生サミットで「仙台未来宣言」を発表

11月5日、仙台市で「世界津波の日」二〇二五高校生サミット」が開催されました。日本を含む10か国から88名の高校生が集い、本校からは災害科学科二年生三名が参加。平間夢人さんが副議長という大役を務めました。平間さんは開催に先立ち、ニューヨークの国連本部を訪問。多様な価値観が共存する世界の広さを肌で感じながら、サミットのPR活動を行いました。本番のサミットでは、各国の高校生と「災害への捉え方の違い」について議論を深め、最終日には行動指針である「仙台未来宣言」を堂々と発表しました。世界の若きリーダーたちと結んだ「きずな」は、今後の災害科学科の活動に新たな息吹を吹き込んでくれるはずです。



吹奏楽部

四名が東北大会へ!

ソロコンテストで音楽性を深化

12月26日(金)と27日(土)、宮城野区文化センターにて「全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト南東北大会」が開催されました。本校吹奏楽部からは、フルート、クラリネット、サクソ



ソ、マリンバの部員が、東北大会への推薦をいただきました。ソロ演奏は、伴奏者と共に自身の音色だけで楽曲を表現する、非常に精神力が求められる舞台です。出場した部員たちは、楽曲の背景や楽器特有の音色を深く研究し、真摯に音楽と向き合っていました。惜しくも推薦を逃した部員も含め、一人一人が最後まで堂々と吹ききり、表現力を大きく養う機会となりました。

柔道部

女子団体・初の東北大会へ!

選手権大会で躍進!

12月20日(土)から21日(日)にかけて、宮城県高等学校柔道選手権大会が開催されました。本校柔道部は、日頃の厳しい練習の成果を存分に発揮し、素晴らしい結果を残しました。団体戦では、女子が小牛田農林高校を破るなど快進撃を見せ、見事第三位に入賞。創部以来初となる、団体での東北大会出場を決めました。男子は惜しくも一回戦で敗退しましたが、強豪校を相手に一歩も引かない接戦を演じました。また、個人戦では今年度新設された「無段の部」で一年生が躍動しました。女子では鈴木花奈さんが優勝。男子も遠藤颯さんが第二位、佐藤謙真さんが第三位に入賞し、三名が揃って東北大会への切符を手に入れました。お忙しい中、保護者の方をはじめ、沢山の応援ありがとうございました。

